

(別添 1)

令和 7 年 4 月 1 日

実施計画書

I 委託業務の内容

1. 基本情報

管理機関	(管理機関名) 福井県
	(代表者職名) 福井県知事
	(代表者氏名) 杉本達治
事業名	産学共創による輝く次世代の地域人材育成システム推進事業
事業実施期間	契約日～ 令和 8 年 3 月 3 1 日
モデル	先進的取組 / 連携体制強化
連携体制を構築する 産業分野	拠点校をはじめ、域内の全専門高校にかかる専門分野 (農業科、工業科、商業科、水産科、家庭科、福祉科)
拠 点 校 名 ※学校名の末尾にかっ こ書きで、実施対象の 学科を記載 〇〇高等学校(農業 科)等	■福井県立坂井高等学校(農業科、工業科、商業科、家庭科) 福井県立武生商工高等学校(工業科、商業科) (計 2 校)
連 携 予 定 の 産 業 界 等 名 (団体名・企業名等)	福井県商工会議所連合会 福井県商工会連合会 福井県中小企業団体中央会 福井大学 福井県立大学

2. 事業概要等

(1) 産業界と専門高校の連携体制に関する申請者の現状と課題

※それぞれ箇条書きで具体的に記載

・令和3年度から令和5年度にかけてマイスター・ハイスクール事業に取り組んできた坂井高校と若狭高校は、これまでに培った成果や自走可能なエコシステムの確立などのノウハウを、成長モデル校である武生商工高校をはじめ、域内の全専門高校へ共有している。

・坂井高校と若狭高校では、普及・促進活動の一環として、自他県の専門高校への知見共有に加え、独自に構築した組織との連携による探究活動を推進。また、地元の幼小中学校や地域とのつながりを強化した教育活動を実施するなど、新たな価値創造に取り組んでいる。

・成長モデル校である武生商工高校では、伴走者による全教職員向けの研修会を開催。さらに、地元大学と商業科教職員が連携してカリキュラムを開発するほか、工業科教職員は地元企業から先端技術の研修を受講するなど、教職員の意識改革を推進している。

・一方、域内の他の専門高校では、単発的または属人的な企業との連携にとどまる事例が多く見られるものの、組織的かつ持続可能な仕組みづくりへの意識は徐々に高まりつつある。

・現在、各校ではキーパーソンのつながりを活用し、企業による出前授業や現場見学、インターンシップなどを実施している。しかし、教育現場のニーズが時代とともに変化する中で、企業との連携が形式的になり、学校の要望と企業の得意分野が合致しないまま進む場合もある。また、学校側が要望に適した企業を見つけられないという課題も残っている。

・さらに、域内の専門高校全体で定員充足率が低迷しており、各専門高校の特色や魅力が、域内の小中学生や保護者、教職員、さらには広く県民に十分に伝わっていない現状がある。

(2) 事業概要

・県（教育委員会・産業労働部）や事業運営委員会に所属する産業界団体を通じて、域内全域の企業が専門高校との連携を視野に入れた協力体制を構築。各校との連携を通じて、カリキュラムの改善や体系的な教育活動を、より実践的かつ現実的なものへと進化させる。

・坂井高校や若狭高校は、事業を通じて構築した地元産業界との連携体制や、コーディネート機能の運用経験など、得られたノウハウや成功事例を域内の専門高校に共有する。

・武生商工高校は、産学連携コーディネーターの育成・活用方法や、自立運営に向けたエコシステムの構築を目指し、率先して事業を推進。この取組により、成長する専門高校のモデル校としての役割を果たし、他校とその成果を共有する。

・その他の域内専門高校は、拠点校のノウハウを活用しつつ、産業界と連携した教育活動をさらに充実。同時に、エコシステム構築を視野に入れた協力体制の整備を進めていく。

（３）事業目的 ※事業を通じて期待する具体的変化について活動レベルで記載すること

・拠点校を中心に、域内のすべての専門高校が自治体や産業界と連携するエコシステムを確立する。これにより、学校と産業界のニーズに応じた実践的なカリキュラムの開発・改善や共同プロジェクトを、組織的かつ持続的に推進する。

・各校が連携する企業や人材のリストを作成し、専門高校間で共有・活用する。これにより、すべての専門高校が新たな企業や人材とつながり、出前授業・企業見学・インターンシップなどをより幅広く実施できる。多くの学校が産業界との連携を強化することで、生徒の地元企業への関心が高まり、地域産業を支える人材育成につながる。

・マイスター・ハイスクール事業を通じて専門高校の教育活動を充実させ、その魅力を域内の中学校や保護者に向けて「マイスター通信」としてデジタル発信する。進路選択の新たなアプローチとして、この情報発信を積極的に活用する。

（４）事業実施体制

●事業運営委員会や、拠点となる専門高校、連携する産業界の体制について記載すること

・福井県（教育委員会・産業労働部）を管理機関とし、産業界から福井県商工会議所連合会・福井県商工会連合会・福井県中小企業団体中央会、高等教育機関から福井大学・福井県立大学が参画し、事業運営委員会を構成する。

・拠点校には「拠点校推進委員会」（産学連携コーディネーター、地域産業界、地域自治体、拠点校の学校関係者など）を設置。事業運営委員会のビジョンに基づき、拠点校での教育活動の域内普及や新たな価値創造に向けた実践研究について、具体的な検討を行い、実行する。

・拠点校は、福井県立坂井高等学校（工業科・商業科・農業科・家庭科）、福井県立武生商工高等学校（工業科・商業科）である。さらに、マイスター・ハイスクール事業の実績を持つ若狭高校の取り組みも共有し、他の専門高校への展開を図る。

●管理機関の役割について

- ・事業の総括と進捗管理及び、事業運営委員会の開催。
- ・産業界・高等教育機関、拠点校及び域内の他の専門高校との双方向の連携支援。
- ・成果発表会の開催や各校の発表会や取組などの情報発信と情報共有。

（５）事業の進捗管理、成果の検証、改善等の仕組み

・拠点校（坂井高校・武生商工高校）において事業運営委員会を開催し、取組と成果を共有。坂井高校では価値向上や普及・促進に関する取組、武生商工高校ではエコシステムの確立を目指した教育活動や体制構築について協議を行う。また、若狭高校では海洋探究協働会議を開催し、自走型の仕組みを確立。他の専門高校にもその知見を展開する。

・伴走者・教育委員会・産学連携コーディネーター・拠点校・域内専門高校が参加するオンライン定例ミーティングを実施。このミーティングでは、拠点校の進捗や成果、各専門高校の課題・ニーズを共有し、それに基づいた改善策を検討する。

・域内すべての専門高校は、マイスター・ハイスクール事業に関連する産業界との連携活動について、年2回、県へ報告書を提出。各校の成果と進捗状況を確認し、マイスター通信等による情報共有を通して、さらなる教育活動の充実を図る。

●達成目標及び指標①（※数値や数量で表すことができる定量的指標が望ましい）

達成目標

・先進的取組校（坂井高校及び若狭高校）を除く域内の全専門高校（9校）において、産学連携コーディネーター（産業教育アドバイザー）や先進的取組校の知見等を活用し、各専門高校に関連する産業界や地域自治体等と連携し、カリキュラム改善や体系的教育活動等、体系的に複数の取組を実施する。

指標（9校 ※坂井高校、若狭高校を除く域内の全専門高校数）

・マイスター・ハイスクール事業にかかる活動に複数取り組んだ専門高校数

●達成目標及び指標②（※数値や数量で表すことができる定量的指標が望ましい）

達成目標

・先進的取組校（坂井高校及び若狭高校）を除く域内の全専門高校（9校）において、産業界や地域自治体等と連携する自立運営可能なエコシステム構築を視野に入れた協力体制づくりの整備を進める。

指標（9校 ※坂井高校、若狭高校を除く域内の全専門高校数）

・マイスター・ハイスクール事業にかかる活動に複数取り組んだ専門高校数

（6）成果発信の取組

・マイスター・ハイスクール普及促進事業について「マイスター通信」を作成し、域内の全専門高校、全中学校に発信

・事業にかかる様々な教育活動を地元新聞等で報道

・各校のWebサイトやSNS、パンフレット等において発信

・各校、地域で実施される課題研究発表会、ふくい産業教育フェア等で成果を発信

3. 令和7年度実施計画

(1) 事業運営委員会の構成

氏名	所属・職	役割
大久保 貢	福井大学 基盤部門 地域創生推進本部 教授	・産業人材育成に係る助言等の支援
北島 啓嗣	福井県立大学 副学長（地域連携） 教授	・高校の課題研究等と関係学部との連携支援
藤川 博史	福井県商工会議所連合会 事務局長	・産業界の課題をふまえ、連携について助言 ・県内各地域の産業界、企業等との橋渡しの支援
加藤 剛	福井県商工会連合会 総合支援センター 所長	
青木 祥彦	福井県中小企業団体中央会 事業推進課 主査	
上藤 正純	福井県産業労働部 労働政策課 課長	・教育界と産業界の橋渡しについて助言等の支援
渡邊 本樹	福井県教育庁 高校教育課 課長	・事業全体の総括

事業運営委員会が本事業において果たす役割

- ・事業の目的や目標を明確化し、具体的な事業計画を策定する。
- ・事業に向けて連携体制を強化し、各関係機関の役割分担を明確化する。
- ・事業の進捗状況を評価し、必要に応じて助言を含む支援する。
- ・事業の運営に関するすべての意思決定を行う。
- ・拠点校推進委員会と課題等を共有し、解決策の立案など、活動全般を支援する。
- ・拠点校だけでなく、域内すべての専門高校と各分野の産業界等との懸け橋となるように支援し、地域の産業界と専門高校のお互いの要望をより具現化する。

(2) 事業運営委員会における検討事項

- ・拠点校をはじめ、全ての専門高校等の課題や展望を把握し、適切な支援の在り方を検討
- ・域内の多様な産業分野におけるコンソーシアムや企業との連携協定等の持続可能な仕組みであるエコシステムの確立を検討
- ・産業界等と専門高校の連携内容の具体的内容を協議
- ・産学連携コーディネーターの持続可能な活用の方策について検討

- ・事業運営委員会を各拠点校で1回ずつ実施し、各拠点校推進委員及びすべての専門高校の校長等も参加して、拠点校の取組やコンソーシアム構築のノウハウ、産学連携コーディネーターの活用事例などの情報を含め、進捗状況を共有する。各校はこの会議で共有できた情報から、自校での教育活動へ反映できることを持ち帰り、校内で検討して実践へとつなげていく。
- ・成長するモデル校である武生商工高校におけるエコシステム構築に向けての具体的な検討、その他の専門高校においても、エコシステム構築へ向けての方向性を検討する。
- ・専門高校と地域産業界の両者の課題や展望について、お互いの情報を共有し、専門高校からの具体的な要望について、事業運営委員の各々の立場から支援できることを提案し、地域の未来を担う人材育成像を策定する。

(3) 事業項目別実施期

事業項目	実施期間（令和7年4月～令和8年3月）											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業運営委員会			◎									○
拠点校推進委員会			◎						◎			
定例ミーティング	○			○			○			○		
マイスター通信			○						○			○
ふくい産業教育フェア								○				
産業界と連携したカリキュラム開発等												→
産業界と連携した体系的教育活動												→
新たな価値創造の実践研究												→

<詳細>※項目別の実施計画詳細

- ・事業運営委員会を各拠点校で1回、別会場で1回実施する。（◎…坂井高校、武生商工高校）
- ・拠点校推進委員会を各拠点校で年2回実施する。（◎…坂井高校、武生商工高校）
- ・定例ミーティングを年4回実施する。（※主にオンライン予定）
- ・マイスター通信を年3回発行する。
- ・ふくい産業教育フェアを11月に嶺北と嶺南の2会場に分けて実施し、拠点校及び域内のすべての専門高校の取組を含め、マイスター・ハイスクール普及促進事業の成果を発表する。
- ・拠点校及び域内のすべての専門高校において、各校各学科の特色に応じた産業界と連携し、産学連携コーディネーター（産業教育アドバイザー）の支援を受けながらカリキュラムの開発や改善に取り組む。
- ・拠点校及び域内のすべての専門高校において、産業界と連携した体系的教育活動として、事業運営委員会や産学連携コーディネーター（産業教育アドバイザー）を活用し、産業実務家教員による授業等を行う。
- ・拠点校及び域内のすべての専門高校において、新たな価値創造の実践研究として、事業運営委員会や産学連携コーディネーター（産業教育アドバイザー）を活用し、小中学校との連携強化にかかる活動等を行う。
- ・前指定校である若狭高校の知見や取組を、域内の全専門高校で共有する。

<達成目標>

- ・先進的取組校（坂井高校及び若狭高校）を除く域内の全専門高校（9校）において、産学連携コーディネーター（産業教育アドバイザー）や先進的取組校の知見等を活用し、各専門高校に関連する産業界や地域自治体等と連携し、カリキュラム改善や体系的教育活動等、体系的に複数の取組を実施する。
- ・先進的取組校（坂井高校及び若狭高校）を除く域内の全専門高校（9校）において、産業界や地域自治体等と連携する自立運営可能なエコシステム構築を視野に入れた協力体制づくりの整備を進める。

(4) 管理機関における取組

- ・普及促進事業の総括と進捗管理及び、事業運営委員会、定例ミーティングの開催
- ・各専門高校で開催される課題研究発表会や検討会の情報共有
- ・全専門高校および全中学校にマイスター・ハイスクールの取組「マイスター通信」発信
- ・各校の学習の成果を発表する「ふくい産業教育フェア」を開催
- ・各校で活用できる企業や人材等のリスト作成

4. 現時点の状況

拠点校における以下の数値について記入すること（拠点校ごとに記載）

拠点校名（※R3～R5のMH事業実施校として）	福井県立坂井高等学校
① コンソーシアム（産業界、自治体など複数で構成される人材育成を目的に含む団体）の数	地域の自治体 2、企業等 33、大学 3
② 産学連携コーディネーターの数	2（三村氏、長谷川氏）
③ 人材育成に関わっている企業等の数	43
④ 人材育成に関わっている企業等人材の人数	86
⑤ 企業等の人材が行う授業の数	一人で担当：64 一部を担当：なし 教員と T.T：119
⑥ インターンシップ	企業数：116 平均期間：2～3日間 参加生徒数：237名

拠点校名（※今後成長するモデル校として）	福井県立武生商工高等学校
① コンソーシアム（産業界、自治体など複数で構成される人材育成を目的に含む団体）の数	なし
② 産学連携コーディネーターの数	1
③ 人材育成に関わっている企業等の数	42
④ 人材育成に関わっている企業等人材の人数	50
⑤ 企業等の人材が行う授業の数	一人で担当：144 一部を担当：なし 教員と T.T：29
⑥ インターンシップ	企業数：110 平均期間：2～3日間

	参加生徒数：267名
--	------------